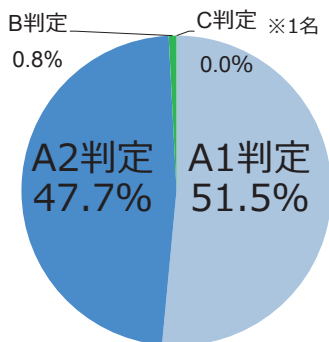


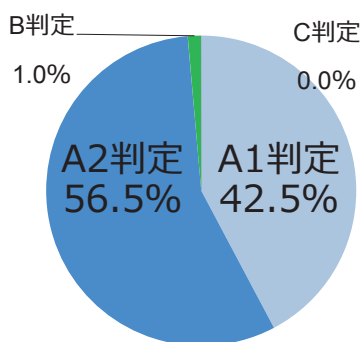
福島県



震災時18歳以下の  
福島県民29万6,253人

「県民健康調査」甲状腺検査結果より作成  
(2014（平成26）年6月30日現在)

3県  
(長崎県、山梨県、青森県)



長崎、山梨、青森の  
幼稚園児から高校生まで4,365名

環境省報道発表「福島県外3県における甲状腺有所見率調査結果」  
2013（平成25）年3月29日  
<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=16520> より作成

検査開始当初、A2 判定の方の割合が多いのでは、と不安の声が多く挙がったことから、2012（平成 24）年度、環境省が、長崎県、山梨県、青森県の 3 県で、約 4,300 人の子どもたちを対象に、福島県と同じ方法で甲状腺検査を実施しました。

福島県の調査は 0 ～ 18 歳が対象であったのに対し、3 県の調査では 3 ～ 18 歳が対象にされ、3 歳未満は対象になっていません。また、3 県調査の場合、母数が少ないため、両調査結果だけを見て単純に比較することはできません。しかし、福島県の子どもたちに際立って A2 判定が多いわけではないことがわかりました。図では福島県の A2 判定は 3 県調査に比べ 9 ポイントほど小さく、逆に A1 判定は 9 ポイントほど大きい結果を示しています。3 県調査の報告書では、「一般的に、3 ～ 5 歳の集団では結節性疾患の有所見率が、6 歳以上の集団に比べて低く、また女性は男性よりも有所見率が高いことが知られている。このため、今回のような単純な記述統計に基づく有所見率は、本来の値よりも高めに集計されている可能性がある。」\*と考察されています。福島県の場合と 3 県の調査結果における A1 判定と A2 判定の割合の違いについては、調査対象母数の大小及び調査対象年齢の違い（3 県では 3 歳未満が調査対象外）などが考えられます。

※：出典 特定非営利活動法人日本乳腺甲状腺超音波医学会「平成 24 年度甲状腺結節性疾患有所見率等調査成果報告書」（環境省委託事業）平成 25 年 3 月

本資料への収録日：2014 年 3 月 31 日  
改訂日：2015 年 3 月 31 日